

私は放送大学へ入学する以前は海外で生活をしており、夫の再就職を機に五島列島の二次離島に移住しました。帰国したら専門である看護師や助産師として働きたいと思っていましたが、高齢過疎が深刻な島には私が働ける場所が無く悩んでいました。そのような時に放送大学を知り、学ぶことでスキルアップにつなげようと考えました。

修士課程の二次試験の直前に、私は大きな決断をしました。島内唯一の商店が閉店を余儀なくされ、買い物難民ができてしまうことを危惧して、私自身が小さな商店を立ち上げたのです。お店を始めてしばらくすると、いつも来る高齢者が買い物に来ないと心配になり、また遠方に住む高齢者の安否が気になるようになりしました。この小さな心配がきっかけとなり、地域互助を活用した新しい高齢者の見守り活動を島内に取り入れ、修士論文にまとめようと思いました。

私は田城孝雄先生にご指導していただきましたが、第一回目のゼミは忘れもしません。同期の多くは医療や福祉の分野で活躍されており、既に研究内容が明確となっている方が多いなか、まだ漠然としたものしかなかった私はただ焦りと不安でいっぱいでした。そのゼミからの帰路、フェリーの中で偶然に見つけた五島市のクラウドファンディングの企画募集の案内に、私は目の前が開けた様と感じました。研究資金の調達により私が思い描いていた見守り活動が現実味を帯びた瞬間でした。クラウドファンディングは成功し、タブレット端末15台の購入費と通信費を得ることができ、市内外への広報にもつながりました。そして島民の間でタブレット端末を利用して特定の高齢者がお元気であるという情報を共有する、「見守りネットワーク」を作り上げました。2年で大きな成果が得られ、修士論文にまとめることができました。そして現在その「見守りネットワーク」は島全体の取り組みとして活用されるようになりました。

田城先生のゼミはとてもユニークです。修士課程の学生だけではなく卒業研究生、博士課程の学生、OBやOGも参加され、専門分野や職種、さらに研究内容もとても多様です。視野が広がるだけでなく、他の方々の研究から多くの示唆や気づきをいただくことができました。また同じ分野の先輩方からもご指導を受けることができ、多くの学びに繋がりました。

五島からゼミの為に東京へ行くのは楽しみである反面、時間も交通費も嵩みました。しかし昨年度からは新型コロナの影響で放送大学のゼミはオンライン開催となりました。また常日頃からメーリングリストを通して活発な意見交換

がなされており、先生や先輩方からのご指導を受けることもできました。このようにインターネットの活用により物理的な距離を感じ無くなったことは、地方の学生にとっては大きなメリットであり、進学や学習継続への障壁が下がったように感じています。地方在住の方も諦めることなく是非、修士課程への進学を志して欲しいと思います。